

安全データシート (SDS)

[SDS No. 11-1]

1 化学品及び会社情報

化学品の名称	
製品名	i J E S T A インクカートリッジ K-1 J
会社情報	
会社名	岩通ケミカルクロス株式会社
担当部署	営業部
住所	〒168-8501 東京都杉並区久我山 1-7-41
電話番号	03-5370-5279
Fax 番号	03-5370-5494
電子メールアドレス	icc_sales@iwatsu.co.jp
緊急連絡電話番号	03-5370-5279
推奨用途及び使用上の制限	ソルベント系染料インク、i J E S T A用

2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分 4
健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2B
	生殖細胞変異原性	区分 1B
	発がん性	区分 2
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期 (急性)	区分 3
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分 3

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	可燃性液体
	眼刺激
	遺伝性疾患のおそれ
	発がんのおそれの疑い
	臓器の障害 (中枢神経系、血液系、腎臓)
	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (血液系、腎臓)
	水生生物に有害
	長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

[安全対策]

使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

取扱い後は手をよく洗うこと。

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

環境への放出を避けること。

[応急処置]

火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。

特別な処置が必要である。

気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。

[保管（貯蔵）]

換気の良い場所で保管すること。

施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性

高温になると引火、燃焼するおそれがある

飲み込むと急性の有害のおそれがある

吸入すると急性の有害のおそれがある

有機溶剤中毒を起こすおそれがある

重篤な眼への刺激

遺伝性疾患のおそれがある

発がんのおそれの疑いがある

ばく露により臓器の障害が起こるおそれがある

長期または反復ばく露による臓器の障害がおこるおそれがある。

水生生物に有害である

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

情報なし

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
エチレングリコールモノブチル エーテルアセテート	112-07-2	2-740	60-70
プロピレングリコールメチル エーテルアセテート	108-65-6	2-3144	10-20
染料	非公開	非公開	1.0-10
樹脂	非公開	非公開	10-20
その他添加剤	非公開	非公開	1.0-10

4 応急措置

ばく露経路による応急措置

吸入した場合	蒸気・ガス等を吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 症状が改善しない場合は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	付着物を布にて素早く拭き取る。 大量の水および石鹼または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。 外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。
眼に入った場合	直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。まぶたの裏まで完全に洗うこと。 直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。 嘔吐物は飲み込ませないこと。 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

データなし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

情報なし

5 火災時の措置

適切な消火剤

炭酸ガス、泡、粉末

使ってはならない消火剤

直接の棒状注水。

特有の危険有害性

適切な保護具（耐熱性着衣等）を着用する。
安全に対処できるのであれば可燃性のものを周囲から取り除く。
指定された消火剤を使用すること。
高温にさらされるカートリッジは水をかけて冷却する。
消火活動は風上より行う。

特有の消火方法

消火作業は、風上から行う。
周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火を行う者の保護

消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスクなど）を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。

屋内では換気をしっかり行う。

屋外の場合には、できるだけ風上から作業を行う。

周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

付近の着火源・高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。

着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。

環境に関する注意事項

漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。

付着物、廃棄物等は、関係法規に基づいて処置すること。

衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。

乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。

二次災害の防止策

情報なし

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項 換気の良い場所で取り扱う。
眼や皮膚、衣服等にインクが付かないようにする。
インクを飲まないようにする。
周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。
工具は火花防止型のものを使用する。
取扱後は手、顔等は良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。

密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。

接触回避 「10.安定性及び反応性」を参照。

衛生対策 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

保管

技術的対策 「10.安定性及び反応性」を参照。

消防法の規制に従う。

混触禁止物質 強酸化剤

安全な保管条件 日光の直射を避ける。

通風の良いところに保管する。

盗難防止のために施錠保管する。

子供の手の届かないところに保管する。

火気、熱源から遠ざけて保管する。

安全な容器包装材料 破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない	
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）		
日本産業衛生学会	設定されていない	
ACGIH	TLV-TWA 20 ppm	エチレングリコールモノブチル エーテル アセテート

設備対策

屋内作業の場合、作業者が直接暴露されない設備とするか、全体換気装置または、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備にすること。

腐食性物質に、作業者が直接接触したり、暴露したりしないような配慮をすること。

取り扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。

保護具

呼吸用保護具	必要に応じて、適切な呼吸器用保護具を着用すること。
手の保護具	保護手袋（ニトリル製、塩化ビニル製）を着用すること。
目の保護具	保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴、保護エプロン等を着用すること。

特別な注意事項

適切な容姿で作業を実施する。

作業場のリスクアセスメント実施が望ましい。

9 物理的及び化学的性質

物理化学的状态	物理状態	液体
	色	黒色
	臭い	溶剤臭
融点・凝固点		情報なし
沸点又は初留点及び沸点範囲		120℃以上
可燃性		情報なし
燃焼範囲の上限・下限		0.9～13.7%
引火点		61.5℃
自然発火点		情報なし
分解温度		情報なし
pH		情報なし
粘度		8.02mPa・s (25℃)
溶解度		情報なし
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)		情報なし
蒸気圧		500Pa (20℃)
密度及び／又は相対密度		0.99±0.01 (20℃)
相対ガス密度		情報なし
粒子特性		情報なし
その他データ		情報なし

10 安定性及び反応性

反応性、 化学的安定性 危険有害反応可能性 避けるべき条件	通常の取扱い条件下では安定である。 一般的な貯蔵・取扱いにおいて安定である。 情報なし 高温を避ける 衝撃を避ける 振動を避ける
混触危険物質 危険有害な分解生成物	強酸化剤 燃焼などにより低分子モノマーなどの有害ガスが発生する。

11 有害性情報

製品の有害性情報	情報なし
成分の有害性情報	
「エチレングリコールモノブチルエーテルアセテート」	
急性毒性（経口）	ラット LD50 = 2400mg/kg
急性毒性（経皮）	ウサギ LD50 = 1500 mg/kg
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない。
「プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート」	
急性毒性（経口）	ラット LD50 = 8352mg/kg
急性毒性（経皮）	ウサギ LD50 > 5g/kg
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	ラット LD50 > 4350ppm (4h)

12 環境影響情報

製品の環境影響情報	
生態毒性 水生環境有害性（短期/急性）	情報なし
水生環境有害性（長期/慢性）	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

成分の環境影響情報

「エチレングリコールモノブチルエーテルアセテート」	
「プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート」	
生態毒性 水生環境有害性（短期/急性）	情報なし
水生環境有害性（長期/慢性）	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

13 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

特別管理産業廃棄物（廃油）に該当するので、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送（ADR/RID の規定に従う）

国連番号 該当しない

品名

国連分類

副次危険性

容器等級

海上輸送（IMO の規定に従う）

国連番号 該当しない

品名

国連分類

副次危険性

容器等級

海洋汚染物質

IBC コード

航空輸送（ICAO/IATA の規定に従う）

国連番号 該当しない

品名

国連分類

副次危険性

容器等級

国内規制

陸上規制情報 消防法、道路法に従う

海上規制情報 船舶安全法に従う

海洋汚染物質 非該当

航空規制情報 航空法に従う

特別な安全上の対策

運搬に際しては、容器の破損、腐食、漏れの無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

その他（一般的）注意
緊急時応急措置指針番号

情報なし
129

15 適用法令

労働安全衛生法	危険物・引火性の物（施行令別表第1第4号） 名称等を表示すべき危険物及び有害物 （政令番号 第312号 シリカ） （政令番号 第79-2号 エチレングリコールモノ ブチルエーテルアセテート） 名称等を通知すべき危険物及び有害物 （政令番号 第312号 シリカ） （政令番号 第79-2号 エチレングリコールモノ ブチルエーテルアセテート）
化学物質管理法(PRTR)	非該当
毒物及び劇物取締法(PDSCL)	非該当
消防法	第4類 引火性液体 第二石油類（非水溶性）
海洋汚染防止法	有害液体物質（Y類物質）（施行令別表第1）
大気汚染防止法	揮発性有機化合物 法第2条第4項（環境省から都道府県 への通達）プロピレングリコールメチルエーテルアセタ ート（Propylene glycol monomethyl ether acetate）
廃棄物の処理及び清掃に関する 法律	特別管理産業廃棄物（廃油）

16 その他の情報

参考文献

NITE GHS 分類結果一覧

日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists TLVs and BEIs.

中央労働災害防止協会：職場のあんぜんサイト

その他関連する安全データシート

【注意】本 SDS は、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の実施を前提としたものであるため、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。